

本年度は「雪、月、風、花」をテーマにして、人生に寄り添う本たちをご紹介します。
今号のテーマは月 **あなたの希望が、月のように、少しずつ満ちていきますように。**

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



**封じ込められた子ども、
その心を聴く**
性同一性障害の生徒に向き合う
2017年 ふくろう出版
中塚 幹也 (著)

[900-3]

心の性と身体の性が不一致という性同一性障害について、基礎知識から日本の現状、現場での対応までをコンパクトにまとめ、どこからでも読めるように工夫された一冊。多くの場合、幼時から性別違和感を覚えるという。人生の早い時期に本人が相談できるような、理解ある環境であれば、子どもの感じるつらさの程度や、うつや自殺の発生率は変わるかもしれない。支援は知ることから。この本の「はじめに」の一文に「読んですんだら、この本を読んでほしい人、大切な人にあげてください」とある。私からあなたに…。(ルナ)



**赤ちゃんにきびしい国で、
赤ちゃんが増えるはずがない。**

2014年 三輪舎

境 治 (著)

[900-6]

表題のブログ記事に大きな反響があり、さまざまな育児の取り組みを取材して、見えてきた育児の理想の形。仕事を優先することを良しとする今のこの社会は、戦争を乗り切るために整えられた制度で作られたもの。子育てを優先した働き方では、軽蔑さえされた。仕事と子育てが分断されているから、子どもが生まれないと子育ての大変さも素晴らしさもわからない。仕事を優先する勤勉な民族性なのではなく、作られた制度による考え方に過ぎないのだから、みんなで変えようと思えば必ず変えられる。優しい国とは？(ぼっと)



**65歳で月収4万円。
年金をもらいながら
ちょこっと稼ぐコツ**
2016年 KADOKAWA
阿部 絢子 (著)

[1000-4]

健康長寿時代の老後はすこぶる長い。果たして年金だけで老後を全うすることはできるのか？未来に不安を感じたら、本書を読んで楽しい老後を実現するためのコツをぜひ身につけてください。著者は年金をもらいながら生活費を「ちょこっと稼ぐ」現役パート薬剤師。いきなりの職場の肩たたきで安定収入を失ってしまった彼女が、自らの経験を踏まえて職を得る方法や職種、賃金など、楽しく生きるために役立つ情報を集めた。そうか、「働く」って、ハタをラクにすることにもつながるんだ！すてきな未来を目指そう。(みっと)



淀川八景

2019年 文藝春秋

藤野 恵美 (著)

[1200-2]

琵琶湖を水源として大阪平野を通り抜け、大阪湾へ流れ込む淀川。その淀川を舞台に繰り広げられる八つの短編で構成された本書には、大阪ならではの哀愁が漂っている。流れを遡り、この世に生を受けられなかった我が子の命に慟哭する男性の源流までの旅、婚活バーベキューに参加するも成果を得られない女性の日常、再婚から生まれる新しい家族の成り立ち…。

いずれの章もちょっと切なく余韻を残して物語を終えている。懐かしい地名や馴染みの大阪弁に思わず、「この淀川、高槻市にも流れてるんよ！」。(みっと)